

伊豆沼・内沼周辺におけるクロハラアジサシと ハジロクロハラアジサシの観察記録

鈴木勝利*・嶋田哲郎

公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畠岡敷味
17-2 E-mail suzukikatsutoshi@hotmail.co.jp
*責任著者

キーワード: 伊豆沼・内沼 クロハラアジサシ ハジロクロハラアジサシ

2013年6月4日受付 2013年6月21日受理

クロハラアジサシ *Chlidonias hybridus* とハジロクロハラアジサシ *C. leucopterus* は、主にヨーロッパやアジアの温暖な地域で繁殖し、冬季は南半球などへ南下し越冬する (Jeyarajasingam 2012, 日本鳥学会 2012).

宮城県における両種の記録をみると、これまでクロハラアジサシでは1羽で5例、2羽で1例、ハジロクロハラアジサシでは1羽の記録が5例ある (日本野鳥の会宮城県支部 2002). 筆者らは2011年6月にクロハラアジサシとハジロクロハラアジサシの複数羽の群れを伊豆沼・内沼周辺において観察した。また、2012年6月と10月にもクロハラアジサシの複数羽の群れを観察したので報告する。

伊豆沼・内沼は、沼の総面積が387 haで、宮城県内最大級の沼である。クロハラアジサシとハジロクロハラアジサシが観察された個体数の推移を表1に示した。両種は、2011年6月15日から7月7日の期間に伊豆沼の南岸で観察され (図1)、クロハラアジサシ4羽、ハジロクロハラアジサシ2羽の最大計6羽が記録された。このクロハラアジサシは、成鳥夏羽とみられる個体 (図2) が2羽と成鳥冬羽とみられる個体 (図3) が2羽であった。ハジロクロハラアジサシは、第1回夏羽とみられる個体 (図4) が2羽であった。

2012年では、6月6日から7月17日と、10月6日から10月13日の期間に、クロハラアジサシが観察された。6月6日から7月17日の間では、6月23日に内沼の南西岸で最大7羽が記録された。このクロハラアジサシは、すべて成鳥夏羽であった。10月6日から10月13日では、主に内沼で観察され、10月6日に最大83羽が記録された。

伊豆沼・内沼では、ハス群落が年々拡大し、2012年には水面の約74%を占めた (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 未発表)。両種が観察されたのは、ハス群落以外の水生植物がまばらな水域であった。

表 1. 伊豆沼・内沼におけるクロハラアジサシとハジロクロハラアジサシの個体数の変化.

観察日	クロハラアジサシ <i>Chlidonias hybridus</i>	ハジロクロハラアジサシ <i>Chlidonias leucopterus</i>
2011年		
6月15日	2	0
6月24日	4	2
6月28日	4	2
7月2日	2	0
7月7日	2	0
7月11日	0	0
2012年		
6月6日	1	0
6月11日	0	0
6月16日	0	0
6月23日	7	0
6月26日	0	0
7月2日	1	0
7月5日	1	0
7月12日	1	0
7月17日	1	0
7月20日	0	0
10月6日	83	0
10月10日	20	0
10月18日	2	0
10月13日	0	0

測所(伊豆沼より約 37 km 南東に位置)の気象データによると、今回クロハラアジサシ類が記録された 2011 年 6 月 15 日、2012 年 6 月 6 日より前後 1 週間の海の気象状況は、平穏であった。しかし、2012 年 10 月上旬においては、10 月 4 日に台風 19 号(Maliksi)が 985 hpa の勢力で、宮城県沖を北上していることから、天候の悪化によって内陸部に数多く飛来した可能性が考えられる。



図 1. クロハラアジサシ(左 2 羽)とハジロクロハラアジサシ(右 1 羽).

水面から 3 m 以上出ている竹杭やハスの花托で休息し、その周辺の水域で飛翔から急降下して採食した。

伊豆沼・内沼が位置する栗原市と登米市の周辺でみると、クロハラアジサシでは伊豆沼で 1935 年に 1 羽と 1985 年 10 月に 1 羽、南方町(現、登米市)で 1995 年 7 月に 1 羽が記録された。ハジロクロハラアジサシでは、伊豆沼で 1983 年 1 月に 1 羽が記録されたのみである(日本野鳥の会宮城県支部 2002)。宮城県では両種ともに、沿岸部の河口や干潟で記録が多く、複数羽の記録は珍しい(日本野鳥の会宮城県支部 2002)。これまでにも台風などの影響により、熱帯や亜熱帯に生息する海鳥類、あるいは、島嶼に生息する外洋性海鳥類が、日本の内陸で確認されることは数多く報告されている(中村 2002)。宮城県の沿岸部に設置してある気象観測所のうち、伊豆沼から最も近い気象観測所である石巻気象観



図 2. クロハラアジサシの夏羽とみられる個体(撮影日 2012 年 6 月 27 日).



図 3. クロハラアジサシの冬羽とみられる個体(撮影日 2012 年 6 月 27 日).



図 4. ハジロクロハラアジサシの第 1 回夏羽とみられる個体(撮影日 2012 年 6 月 26 日).

引用文献

- Jeyarajasingam, A. 2012. *A Field Guide to the Bird of Peninsular Malaysia and Singapore.* Oxford University Press, China.
- 中村一恵. 2002. *BIRDER* 9 月号海鳥はなぜ落ちるのか. 文一総合出版, 東京.
- 日本鳥学会. 2012. *日本鳥類目録改訂 7 版.* レタープレス, 東京.
- 財団法人日本野鳥の会宮城県支部. 2002. *宮城県の鳥類分布.* イシカワ印刷, 宮城.

Observational record of Whiskered Tern and White-winged Black Tern around
Lake Izunuma-Uchinuma in the inland part of Miyagi Prefecture

Katsutoshi Suzuki* & Tetsuo Shimada

The Miyagi Prefectural Izunuma-Uchinuma Environmental Foundation. 17-2 Shikimi, Wakayanagi,
Kurihara, Miyagi 989-5504, Japan E-mail suzukikatsutoshi@hotmail.co.jp
* Corresponding author

Abstract Several Whiskered Terns *Chlidonias hybridus* and White-winged Black Terns *C. leucopterus* were observed around Lake Izunuma-Uchinuma in the inland part of Miyagi Prefecture from June to July in 2011 and 2012, and October 2012. A total of six terns, four Whiskered Terns and two White-winged Black Terns, were recorded from June to July in 2011, and total of seven Whiskered Terns were observed in 2012. Moreover, a maximum of 83 Whiskered Terns were counted on 6 October after typhoon 19 (Maliksi) passed northward and offshore of Miyagi Prefecture on 4 October 2012.

Keywords: Lake Izunuma-Uchinuma, Whiskered Terns, White-winged Black

Received: June 4, 2013/ Accepted: June 21, 2013